

資料 6－3

(平成29年度第1回血液事業部会適正使用調査会資料)

外来輸血

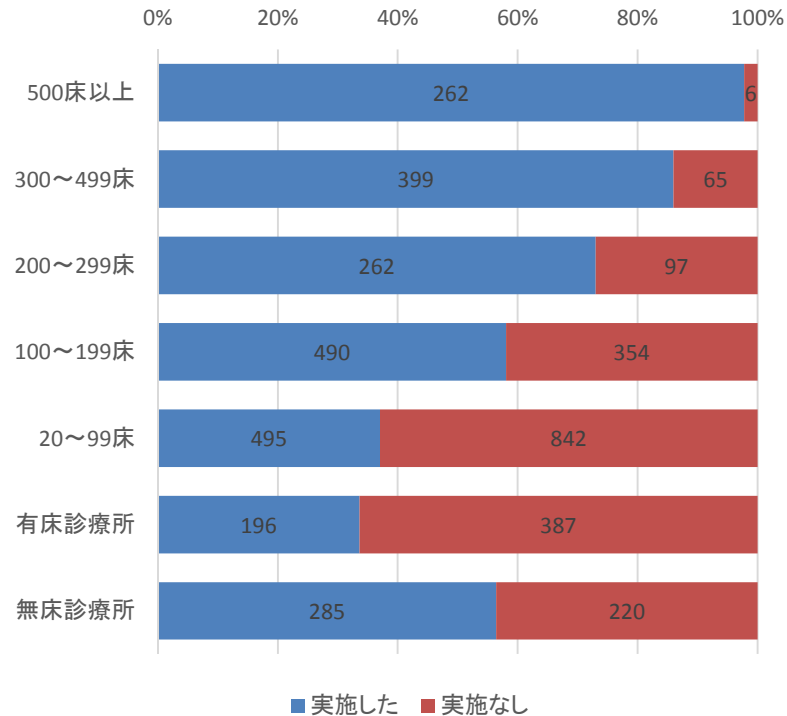
青森県立中央病院 臨床検査部
福島県立医科大学 輸血・移植免疫部
北澤 淳一



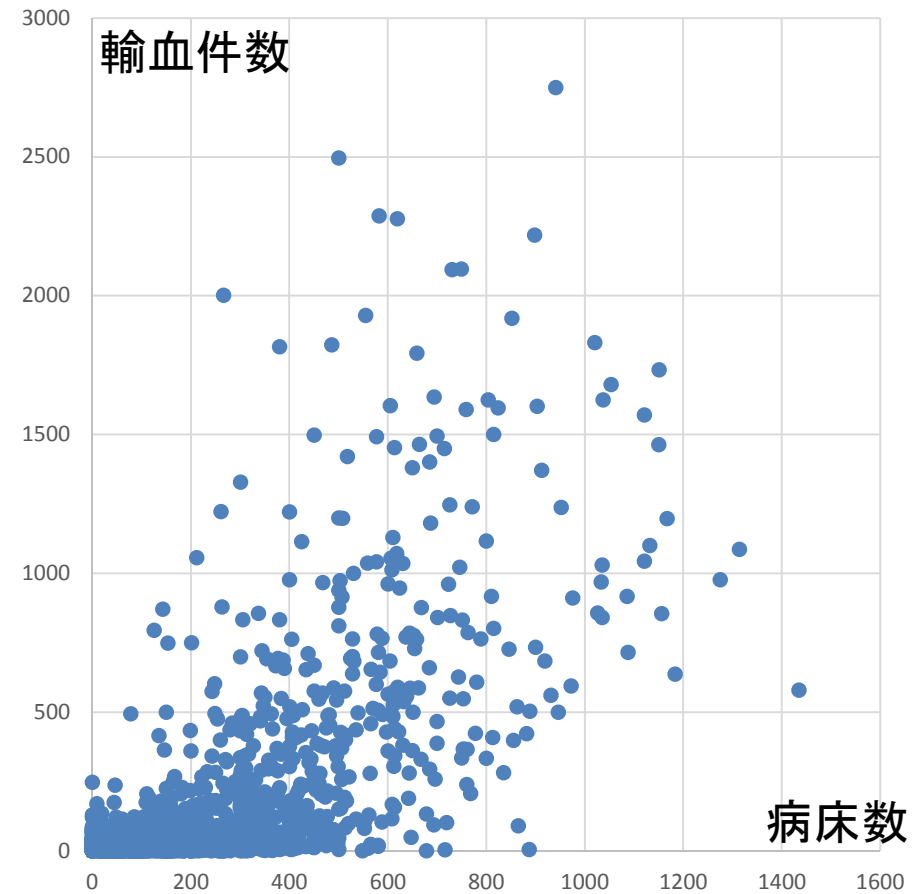
対象および言葉の定義

- 平成28年度調査において、平成28年1年間に外来で輸血を実施した、と回答した施設について検討した。
- 以前からの分類を使用し、規模別病院の定義は、大規模病院＝500床以上病院、中規模病院＝300～499床病院、小規模医療機関＝0～299床病院・診療所とした。
- この検討では、小規模医療機関を、さらに200～299床病院、100～199床病院、20～99床病院、有床診療所、無床診療所に分類して検討した。

外来輸血を実施したか？

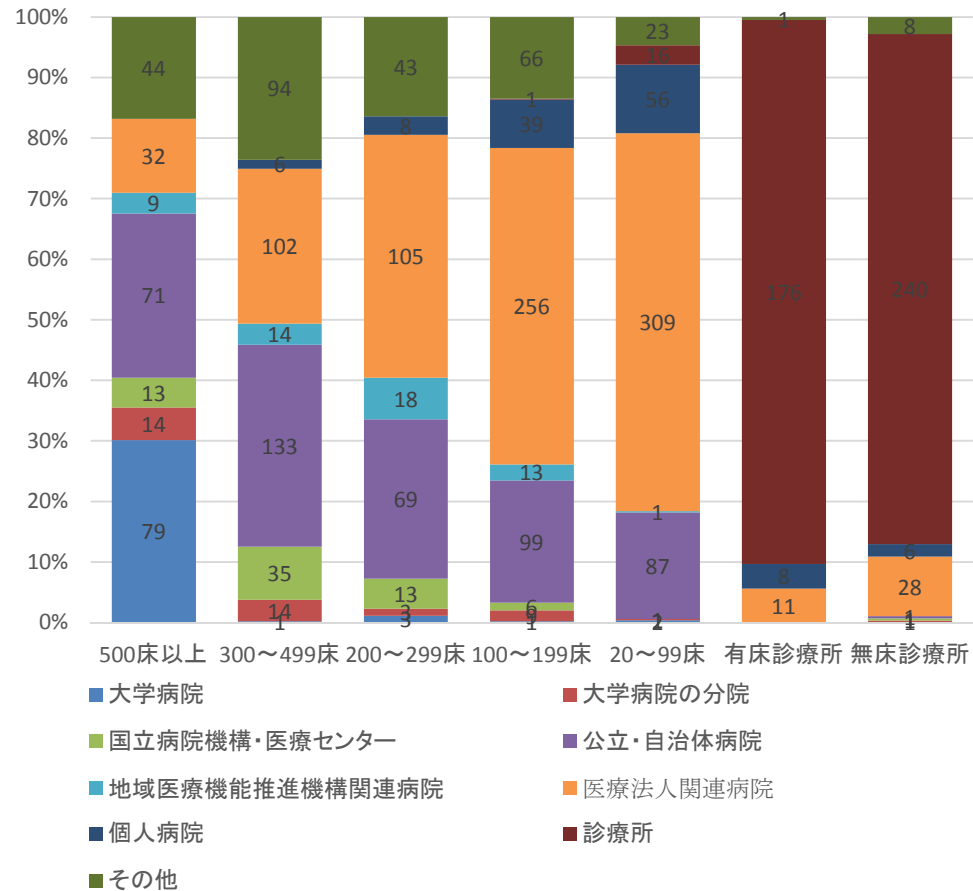


	500床以上	300～499床	200～299床	100～199床	20～99床	有床診療所	無床診療所
輸血実施施設	268	464	359	844	1337	583	505



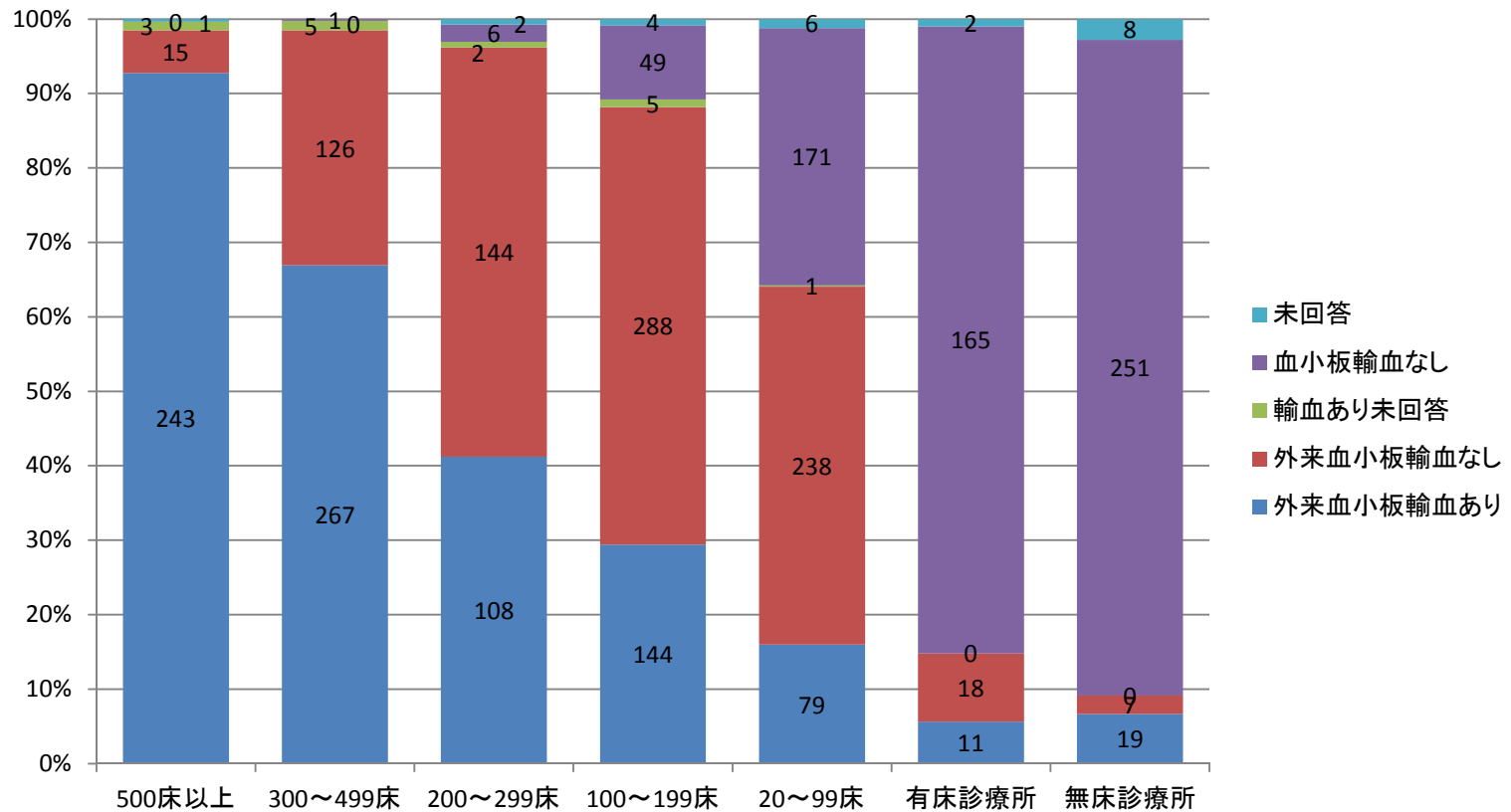
	500床以上	300～499床	200～299床	100～199床	20～99床	有床診療所	無床診療所
施設数	262	399	262	490	495	196	285

病院形態

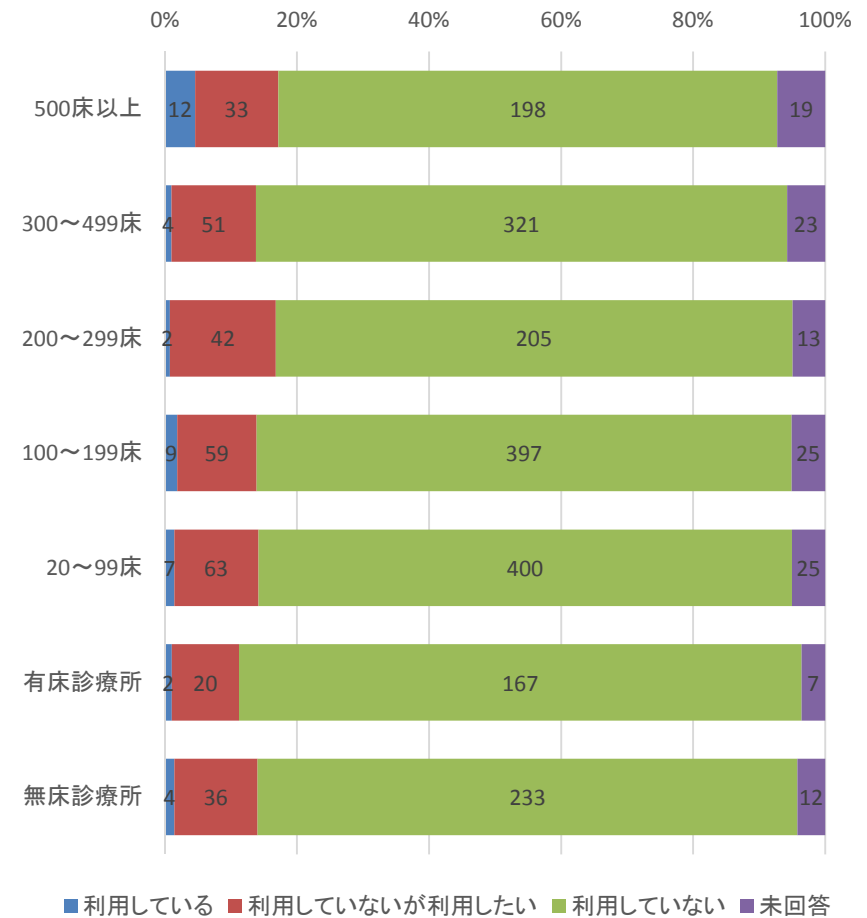
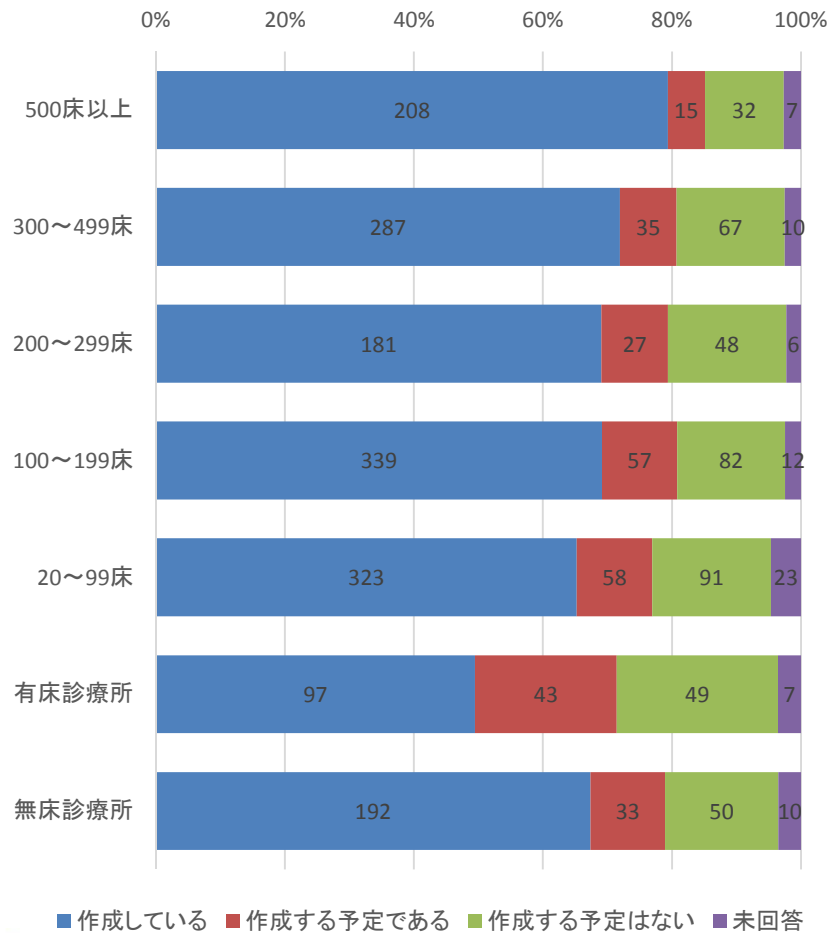


	500床以上	300～499床	200～299床	100～199床	20～99床	有床診療所	無床診療所
施設数	262	399	262	490	495	196	285

血小板輸血について

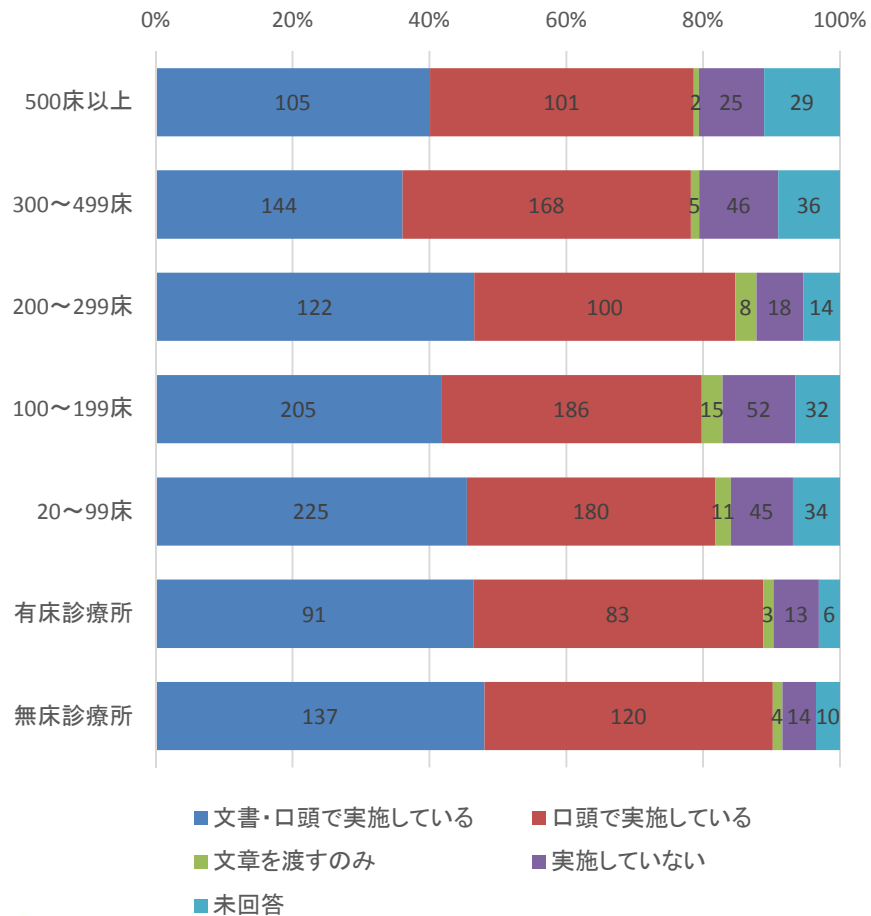


外来用輸血マニュアル 輸血手帳

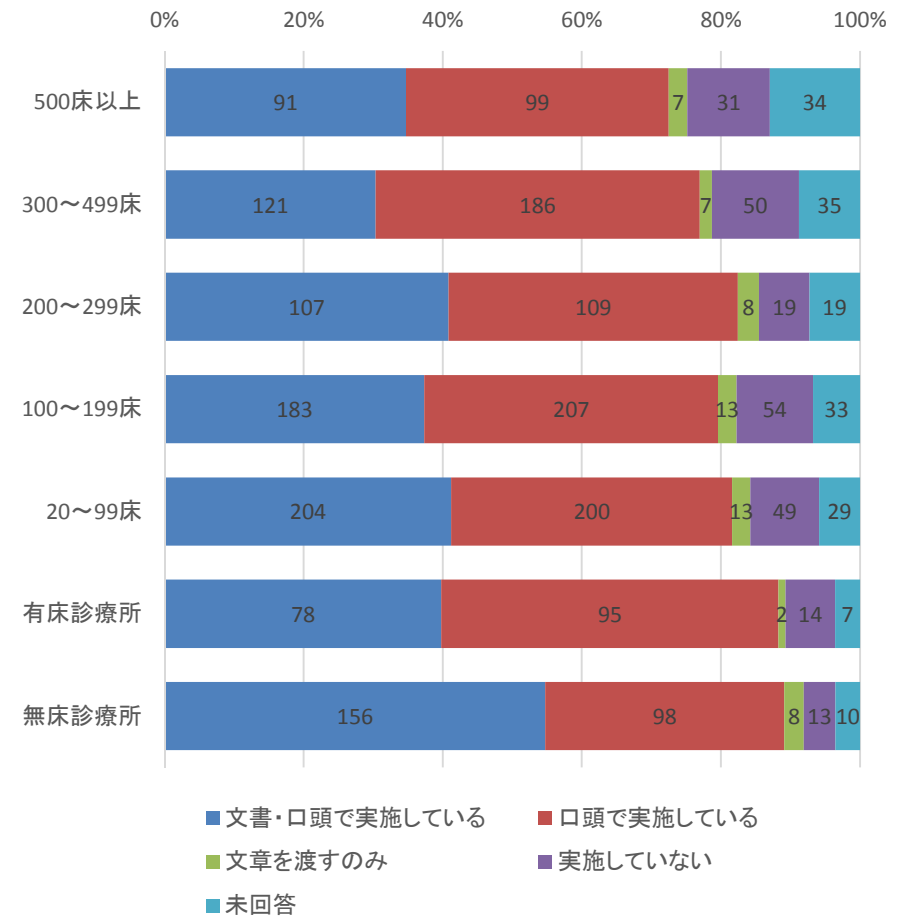


外来輸血

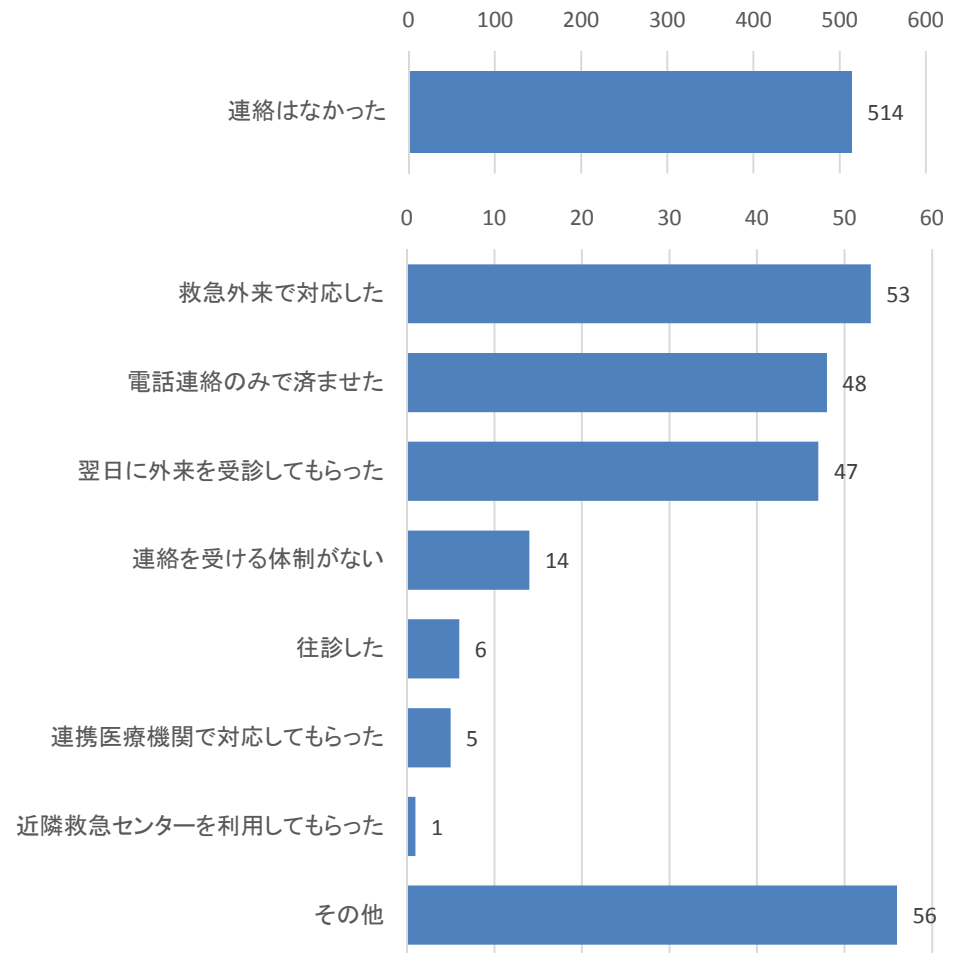
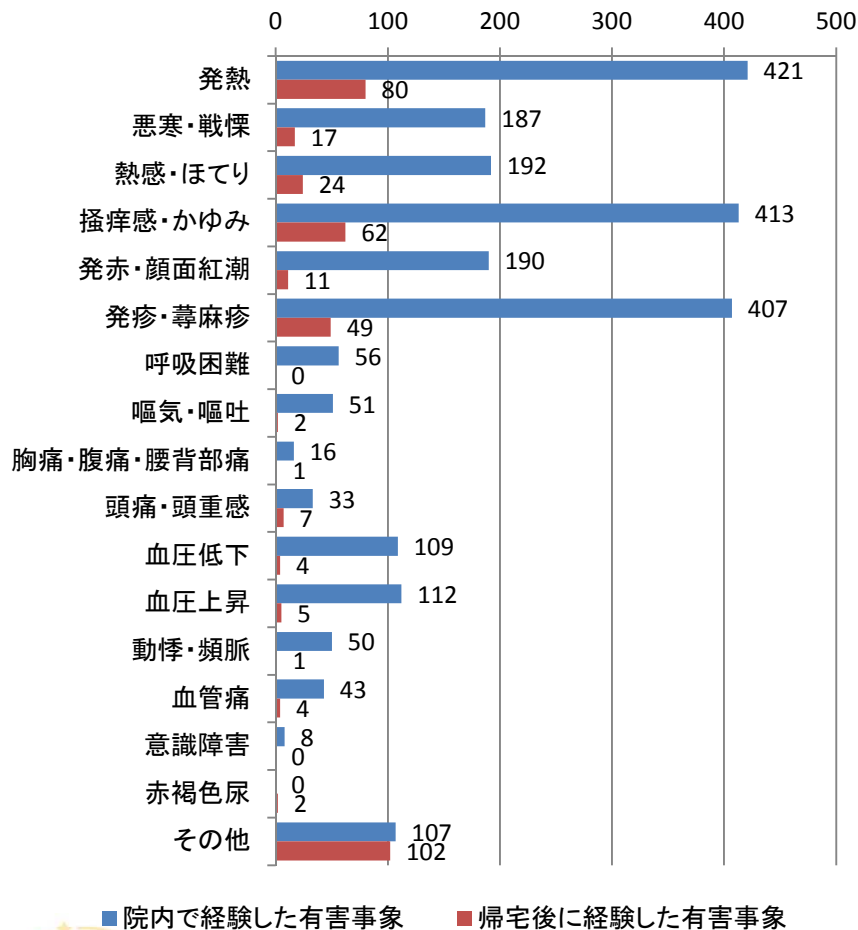
副作用の説明



連絡先の説明



有害事象と対応について



まとめ

- (スライド2)厚生労働省調査の回答のうち、平成27年1年間に外来での輸血療法を実施したと回答した施設は、病床数が大きいほど実施したとの回答が見られたが、無床診療所で「実施なし」との回答が多かった。病床数と外来輸血件数には正の相関あり。
- (スライド3)以後の検討は、外来輸血実施あり、の施設のみを対象とした。
- (スライド4)外来で血小板輸血を実施している施設は病床数が少ないほど少なかった。
- (スライド5)外来用輸血マニュアルは、病床規模を問わず「作成の予定なし」が10～15%程度あった。輸血手帳についての認知度も向上しており、使用したい、が増加している。
- (スライド6)外来輸血時の副作用の説明や対応方法については、病床規模に関わらず、ほぼ同様であった。連絡先を文書で実施している施設の割合が診療所で多かった。
- (スライド7)帰宅後に経験した有害事象の割合が予想よりも少ない。連絡がなかったとの回答が最も多かったが、有害事象に対する対応は「その他」が多く、今回挙げた理由以外の対応があることがうかがわれた。